令和８年に130周年を迎えます！

磐田農高同窓会報

瑞穂

第35号
令和７年（2025）７月31日発行

発　行
静岡県磐田市中泉168
静岡県立磐田農業高等学校同窓会事務局
TEL　0538-32-2161

３世代にわたるメロン栽培の夢

澤木　　勝（80回卒）・俊文（106回卒）

≪静岡クラウンメロン農家として46年≫

磐田農業高校（磐農）を卒業後、静岡県立農業短期大学校を修了し、20歳で就農しました。父が磐農を卒業後、我が家は４代に渡り磐農にお世話になりました。そして父が始めたメロン栽培を継ぎ、ガラス温室７棟（200坪）で栽培をスタート。当時は、同年代の後継者が約10名ほどおり、毎月持ち回りで勉強会を開催していました。それから46年が経ち、現在も研究会を続けています。仲間と切磋琢磨することで、生産技術を向上させてきました。また、組合員から栽培方法の指導を受けながら学び続け、少しずつ温室を建て替え、増設。現在では、温室12棟（640坪）、年間50作を手がけ、６玉入りの箱で3,000箱を出荷しています。

≪３世代にわたるメロン栽培の夢≫

長男も磐農を卒業後、静岡県立農業短期大学校を修了し、就農して21年が経ちました。現在は家族４名で経営しています。さらに、孫も今年３月に磐農を卒業し、静岡県立農林環境専門職大学短期大学部に入学しました。３世代でメロン栽培を続けることができればと、夢を膨らませています。メロン作りは大変難しく、天候にも大きく左右される作物です。周年栽培の為、冬は暖房、夏は冷房と季節によっても栽培管理が異なります。家族３代でその栽培管理を相談しながらメロン作りをするのも大きな楽しみです。

≪クラウンメロン支所の歴史と未来≫

令和６年８月より、クラウンメロン支所長に任命されました。クラウンメロン支所は100年の歴史を持ち、栽培が始まったのは大正10年頃といわれています。最初は３名の共同で温室栽培を開始し、その後、高度経済成長の波に乗って急速に広まりました。昭和39年には、クラウンメロン支所の前身となる「丸静支所」が発足。この頃から、王冠マークのシールをメロンに貼って出荷し、「クラウンメロン」ブランドとして全国に、そして海外にその名が知られるようになりました。

平成２年には組合員615名が88万ケースを出荷していましたが、令和６年には組合員が210名に減り、30万ケースの出荷量となっています。そこで現在は、少量培地によるメロン作りを進め、省力化を図る研究を推進中です。また、組合員を増やすため、空き温室を活用して新規就農者の支援も行っています。今年は33年ぶりに２名の組合員が新たに加入しました。

静岡県温室農業協同組合には「クラウンメロン」と「アローマメロン」の２つのブランドがありますが、これをワンブランドにし、静岡のメロンを安定的に出荷することを目指しています。今後は集荷施設や栽培技術の革新を進め、国内外においてクラウンメロンの優位性を確立できるよう、組合員・職員一丸となって取り組んでいきたいと思っています。

現在の不透明な時代、農業分野では高齢化、人手不足が叫ばれている時代に今後20年、30年、いや100年先まで生き残れる温室組合、メロン業界をつくる為に日々頑張っているところです。

多くの皆様に愛される「クラウンメロン」である為に。

農業の未来を憂う、そして母校の伝統を想う

同窓会頭　69回卒　鈴　木　　勝

同窓生の皆様におかれましては、益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。この瑞穂が皆様のお手元に届く頃には、秋風が心地よい季節となっていることと存じます。

さて、私たちが日々直面している日本の農業の現状について、皆様と共に深く考える機会をいただきたく、筆を執りました。

＜農業を取り巻く厳しい現実＞

現在の日本の農業は、非常に厳しい局面に立たされています。私が長年、家業である水田農業に携わってきた中で特に感じるのは、農業が政治において、十分に尊重されていないということです。食料の安定供給は国家の安全保障の根幹であり、国民の生命と健康を守る上で最も重要な要素であるにもかかわらず、その生産を担う農業が軽んじられている現状は、極めて憂慮すべき事態であると言わざるを得ません。

その象徴的な例が、稲作の現状です。農家は春に種をまき、一年間丹精込めて育てた米が、秋に一体いくらで売れるのか、その見通しが全く立たないまま生産を続けています。これは、他の産業では到底考えられないことです。例えば、工業製品であれば、製造者は小売価格をある程度想定し、そこから逆算して生産計画を立てることができます。しかし、農業においては、需給バランスや市場原理に大きく左右され、時に生産コストさえも賄えない価格で取引されることもあります。このような不安定な状況下では、若い世代が農業に夢を抱き、新たな担い手として参入することは、至難の業であると痛感いたします。

さらに昨今、私たちは耳を疑うような事態に直面しています。それは、コメの不足、そしてそれに伴う価格の高騰です。長らく「減反政策」のもと、コメは常に供給過剰であるかのように扱われてきました。しかし、地球温暖化による気象変動や、生産者の高齢化・減少など、様々な要因が複合的に絡み合い、安定供給が当たり前であったはずのコメが、今や市場で品薄となり、その価格が消費者にとっても大きな負担となるほどに跳ね上がっています。これは、これまで日本の農業政策が、短期的な視点に偏り、食料安全保障という長期的な視点を軽視してきた結果ではないかと、私は危惧しております。かつて「コメ余り」と揶揄された時代を知る者としては、現在のこの状況に、強い危機感を覚えると共に、政府の農業政策の根本的な見直しを強く訴えたい気持ちでいっぱいです。

＜担い手不足と薄れる伝統＞

ご承知の通り、日本の農業は深刻な担い手不足に直面しています。高齢化は進む一方であり、後継者が見つからずに廃業する農家が増加しています。若い世代が農業に魅力を感じられない現状が続けば、日本の豊かな田園風景や、脈々と受け継がれてきた食文化が失われてしまうのではないかと、非常に強い危機感を抱いております。これは単に農業生産量の問題に留まらず、地域の活性化や、日本の美しい景観の維持にも直結する、喫緊の課題であります。

このような状況は、時代に即した新たな教育の形を常に模索し、生徒たちの育成に日々尽力されている先生方には、深く感謝と敬意を表します。しかし、学校もまた、社会全体の大きな変化の波に晒されており、今はまさに大きな変革期にきているのだと感じています。

その象徴的な出来事として、明治39年から100年以上にわたって続けられてきた山林実習がなくなるという話を聞いたときには、大変な衝撃を受け、寂しさを禁じ得ませんでした。地域に根ざした、これほどまでに長く続いた伝統的な実習が一つ、また一つと姿を消していくことは、単なる教育課程の変更以上の意味を持つのではないでしょうか。それは、先人たちが築き上げてきた歴史や文化、そして脈々と受け継がれてきた「磐田農業高等学校らしさ」とでも言うべきものが、少しずつ薄れていってしまうのではないかという、深い懸念を抱かせます。私たち同窓生が、母校の伝統を守り、次世代へと繋いでいくために何ができるのか、真剣に考えるべき時が来ていると感じています。

＜未来へ繋ぐために＞

しかし、私たちはただこの厳しい現実を嘆いているだけではいけません。この状況を正面から受け止め、同窓生一人ひとりが、日本の農業の未来、そして母校の発展のために何ができるのかを真剣に考えるべき時が来ているのではないでしょうか。

磐田農業高等学校の卒業生として、私たちは日本の農業の素晴らしさ、食の尊さを次世代に伝え、そして新たな農業の形を模索していく責任があるはずです。これからの農業は、AIやIoTといった先端技術の導入、大規模化による効率化、さらには加工・販売まで手掛ける６次産業化など、多岐にわたる可能性を秘めています。母校が、こうした新しい時代の農業を担う人材を育成するために、どのような教育を展開していくべきか、私たち同窓会も共に考え、支援していくことが重要です。

同窓生の皆様の知恵と力を結集し、この難局を乗り越え、日本の農業、ひいては私たちの食の未来を確かなものにしていくことを心から願っております。

結びに、皆様の今後の益々のご健勝と、磐田農業高等学校のさらなる発展を祈念し、私の挨拶とさせていただきます。

磐農の学びは面白い

校　長　磯　部　正　之

同窓生の皆様には、日頃より本校の教育活動に御理解と御支援を賜り、心より感謝申し上げます。

私は４月に校長として着任しました磯部正之（いそべまさゆき）です。磐田市見付在住です。どうぞよろしくお願いいたします。教科は理科（化学）です。農業高校は初めての勤務となります。農業教育を深く知るために、着任してから色々と校内外を巡回しています。生徒たちは授業や実習、校外での活動などに生き生きと取り組んでいて、「磐農の学びは面白い」と感じました。面白いとは、楽しいだけではなく中身が充実しているとか役に立つという意味を含みます。

令和７年度は創立129年になります。校訓「高品性」「重労働」（品性を高うして、労働を重んずる）のもと、各学年５クラス（生産科学科・生産流通科・環境科学科・食品科学科・生活科学科）の編成で生徒たちは学んでいます。本校では各学科の特性に合わせた専門的な学習をとおし、広い教養と農業の知識・技術及び技能を身に付け、地域や産業社会の発展に貢献できる心豊かで人間性あふれる人材の育成を目指しています。

地域貢献学習の一例として、昨年度の成果を３つ紹介します。

１「改善提案」

生産科学科の生徒たちが、子ども食堂のボランティアとして活動に参加するとともに、栽培したキュウリやトマトなどを提供したり草花の寄せ植え体験を提案したりしました。

２「満員御礼」

生産流通科の生徒たちが、「磐農生と巡る食と農の魅力旅」を企画し、磐田市内で開催しました。県内外から約20人が参加し、農業体験をしたり地元農産物を楽しんだりしました。

３「笑顔満開」

生活科学科の生徒たちが、年間を通じて磐田市立長野幼稚園の園児たちと野菜苗定植、パン作り、羊の毛刈り、サツマイモ収穫、ミカン収穫、餅つき体験などの交流を行い、楽しい時間を過ごしました。

また、今年度も変わらない生徒たちの活動を紹介します。

創立百周年の時に整備されたバラ園をしっかりと管理していて、５月と11月には一般公開をしています。毎月第２・４週の水曜日には花などの校内販売を行っています。年４回開催される磐田市のジュビロードで開催される軽トラ市にも出店しています。いずれの活動も盛況でした。もしよろしければ、皆様にも足を運んでいただき、後輩たちの活動を応援していただければと思います。

最後に、同窓生の皆様には、今後も本校の教育活動の充実のために御指導、御鞭撻をいただきますとともに、御支援くださいますようお願い申し上げます。

大日山閉山式

令和６年８月９日（金）に、大日山演習林は閉山式を終えました。1906（明治39）年より、大日山金剛院の所有する山林の一部を本校演習林として使用すること、115年。厳しい山林実習は、校訓「品性を高うし、労働を重んずる」の精神を培ってくれました。大日山に感謝の意を表すとともに、磐農の更なる発展に邁進したいと思います。

87回卒　原田恭宏

農業情報処理競技会

令和５年度日本学校農業クラブ全国大会農業情報処理競技会で山下粋武さん（127回卒）が最優秀賞に輝きました！

リーダーシップ2024春号より

静岡県教育長に報告

令和７年度プロジェクト発表関東大会出場！

Ⅰ類　経験と勘に頼らないメロン栽培を目指して

生産科学科　石黒　栞太　　土屋　花奈　　大野　湧真　　寺田　結捺　　下原　昊真

Ⅱ類　希少高山植物絶滅を回避せよ　～南アルプスの現状を多くの人々へ～

生産科学科　関　優花　　梅宮　翼　　濱田　結月　　倉橋　歩亜　　松島　天鞠　　徳千代　倖　　加藤　舞桜

Ⅲ類　磐農生と巡る　食と農の魅力旅　～「つながる」ことは幸せの第一歩～　第３報

生産流通科　河村　来馳　　山本　蒼　　山田　麻央　　梶野　祐志　　草川　心優　　鈴木　瑞菜

丸山古墳

磐田農高の校地内に２つ古墳がありますが、学校祭の名称になったりと学校のシンボルとなっている澄水山に対して、あまり話題に上らない丸山古墳を特集します。

大正時代の丸山“茶園”
記念館に残る最古の写真です。

１９６２年
このころまでは、まだ“茶園”でした。

１９６９年
みかんに改植されています。果樹棟も建っています。

２０２５年
ほぼ同じアングルから撮影しました。

現在の丸山

実習風景

生産科学科

生産流通科

環境科学科

食品系

部活

陸上部

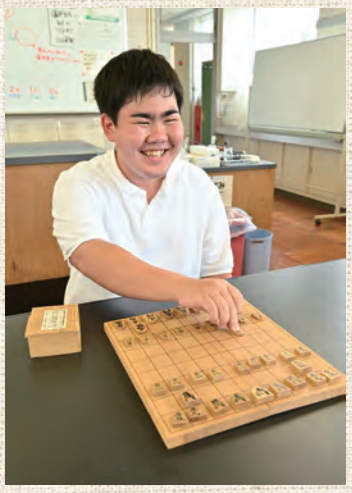
バレーボール部

吹奏楽部

野球部

男子バスケットボール部

水泳部



囲碁将棋部

生活科学部

バドミントン部

新同窓会員より

128回卒　一　木　　駿

磐田農業高校での３年間はとても濃く、振り返ると様々な経験や思い出が出来た学校生活でした。私たちはそれぞれの道に進み出しました。私も高校生活で得たものを活かし努力しています。

私は生徒会として磐田農業高校の行事運営を行ってきました。コロナあけということもあり、前年度と違う部分に戸惑いながらも先生方や生徒会の仲間、生徒の皆さんの協力があり、完遂することが出来ました。

入学当初は生徒会に入りたいと思う気持ちはあったものの、もう一歩が出ず、生徒会に入ることができませんでした。しかし、クラスメイトの後押しや協力があり、遅れてではありますが生徒会に入ることができました。入りたての頃は自主的、能率的に行動する先輩方に憧れるとともに自分はそんな先輩方のようになれるのかという不安がありました。そんななかでも優しく教えてくださった先輩方や同学年の仲間とともに生徒会業務を行う事ができました。

生徒会長に立候補してからは想像していた生徒会長との重圧やプレッシャーのギャップがあり、本当に自分に務まるのかと思うこともありました。１年間、生徒会長という役割を果たすことが出来たのは周りの人の手助けのおかげでした。これからの人生で生徒会長をさせていただいたことはすごく自信になり、誇りにもなりました。挑戦することをやめず、虎穴に入らずんば虎子を得ずと心に留め、挑戦した先を見られるよう努力し続けます。

新同窓職員紹介

本年度より、117回卒大塚が母校に着任いたしました。

農業を楽しみながら学ぶ

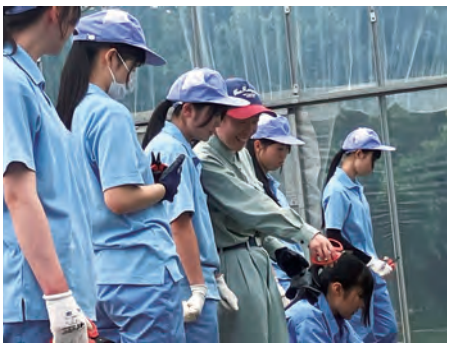
117回卒　大　塚　夏　希

本校を117回に卒業し、当時在籍していた職員に見送られましたが、今年度から私が生徒を見送る立場になったことに感慨深いです。

当時私は食品系の生徒として食品製造や調理、保育実習などを学習しました。

その授業を今度は教える側となり今では当時の教職員の気持ちが少し理解できます。

「生徒が楽しみながら学んでほしい」「生徒のために実りある授業展開を心がけよう」「次世代の若い人達に農業の魅力を伝えるにはどうしたらいいのか」その観点に沿って授業をしてきたのだと思います。



その精神を今度は私が継承していきたいです。

伝統ある磐田農業高校で農業を学ぶことが楽しい、毎日目を輝かせながら生き生きと登校してくれる日々を作り上げられるように一生懸命頑張りますので今後も御指導御鞭撻をよろしくお願いいたします。

現在、磐田農高に勤めている同窓生

教　　諭	原　田　恭　宏	87回卒
教　　諭	西　尾　眞　一	88回卒
教　　諭	大　場　雅　之	95回卒
教　　諭	佐　藤　　一	97回卒
実 習 助 手	大　塚　夏　希	117回卒

臨時実習助手	有　馬　綾　乃	101回卒
実習助手（育休）	佐　野　愛　深	117回卒
非常勤嘱託員	徳　増　一太郎	73回卒
非常勤嘱託員	鈴　木　加津久	80回卒

同窓会へご寄付をいただける場合は学校へご連絡下さい。（書面やお電話でのご案内は現在行っておりません。）

平和を願う日

農場の生産科学棟の近く、丸山みかん園の一郭に「平和の願い」の碑が本校100周年を迎えた平成８年５月19日に建立されました。これは戦争の犠牲者となった５人の生徒を慰霊すると共に平和を願うため、当時の同級生が中心となり基金を募り建てた慰霊碑です。そして、この碑文に次のような当時の惨状がきざまれています。

第二次世界大戦中の昭和20年５月19日午前、米国空軍B29爆撃機約90機は関東・東海領域に侵入した。密雲のため飛行場及び軍需工場の攻撃目標を発見できず、各地に散発的に投弾した。

この日、生徒達の一部は勤労動員に一部は学校実習に分かれ、それぞれの場所で作業に汗を流していた。10時50分空襲警報発令、各所で作業中の生徒達は、近くの防空壕に避難した。飛来する米軍機は猛爆の雨を降らせ、空は黒く風はよどみ、相次ぐ爆音不気味な落下音は続いた。

11時13分校内に落弾した５発の内の一発は、至近弾となり丸山茶園南側の防空壕、前方わずか５メートルに落下した。身を伏す瞬間炸裂した弾片爆風は容赦なく壕内を襲った。悲惨極まりない壕内の惨状はただ絶句するのみ。一蓮托生５人の学友は、一朝にして幽明境を異にした。罪なき若い命をも奪う無謀な戦争のもたらす無慈悲な凶行に非憤慷慨を覚えざるをえない。

将来を嘱望する我が子を失った遺族の悲嘆を察すると、涙を流し哀悼せざるを得ない。亡き友を偲ぶ中、慰霊碑建立の機運高まり殉難者の冥福を祈ると共に恒久の平和と母校の発展を祈念し、この碑を建つ。

慰霊碑「碑文」の抜粋

53回卒　鈴木　巌 氏

同窓会役員名簿

役職名	回数	氏名
顧問	57	藤森　進
会頭	69	鈴木　勝
副会頭	68	大場　孝侑
	68	太田　京平
	69	奥之山　隆
	69	星野　勝彦
	70	河島　直明
理事	70	酒井　真弓
	73	原田　多加資
	77	根津　康広
	80	神谷　富美子
	91	大石　恵子
監事	69	鈴木　安弘
	69	川島　文雄
	76	雪嶋　昇
関東支部長	63	海野　亘
伊豆〃	72	板垣　秀樹
駿東御殿場〃		
富士吉原〃	68	服部　藤徳
清庵（庵原清水）〃	68	石川　正巳
静岡〃		
志太〃		
榛原〃	76	藤森　敦
大須賀〃	62	土屋　将
大東浜岡〃	73	岩倉　寿夫
菊川小笠〃	71	石原　潔
掛川〃	76	新堀　光男
春野〃	73	大道　正治
森〃	68	野口　富彦
磐田〃	73	宮崎　剛
袋井〃		
天竜〃	77	鈴木　秀和
浅羽〃	68	安井　政彦
福田〃	69	星野　秀次郎
豊田〃	69	白川　悦男
竜洋〃		
豊岡〃	66	村松　勝一
龍山〃	77	藤澤　徳次
佐久間〃	72	三室　進
水窪〃	78	耳塚　均
浜北〃	70	大村　厚
湖南〃		
湖西〃	60	吉原　熊男
浜松〃	63	大石　良夫
引佐〃		
関西〃		
南米〃	56	大箸　直之（アルゼンチン在住）

会員名簿発行のお知らせ

10年ぶりに会員名簿を改訂する事が決定しました。
皆様のご協力・ご協賛、宜しくお願い申しあげます。

完成予定：2026年９月
販売価格：4,100円（送料・税込）
発行協力金１口１万円および広告募集予定

2025年12月頃から、掲載可否確認および購入依頼等の文書が発送される予定です。
各種お問合せ、ご要望は下記委託先へご連絡願います。
㈱サラト　**0120－951－122**
（土日祝日を除く 9：30～16：00）

編集後記

同窓会報「瑞穂35号」を無事発行することが出来ました。これも同窓会皆様の御協力の賜物と関係各位に心から感謝申し上げます。

本同窓会は、令和６年に127回卒187名、令和７年に128回卒190名を迎え入れ22,507名となりました。今後も母校発展のため同窓会皆様方の御支援と御協力をお願いいたします。

いよいよ来年度は創立130周年を迎えます。10年ぶりに同窓会名簿の発行を計画しております。会報発行後、秋ごろにご案内が届く予定ですので、旧交を温めるきっかけになれば幸いです。

記事内でもありましたが、在校生たちは特に農業クラブ活動で結果を残しております。令和５年度の農業情報処理競技会最優秀賞もそうですが、本年度もプロジェクト発表で３つの部門全てで県代表になっており、この先の大会でのさらなる活躍が期待されています。

最後に同窓会では、弔電を打たせていただいております。ご連絡をお願いいたします。